第 1 回栗山町立小中学校再編準備委員会の開催について 議事録

令和 7 年 4 月 22 日（火）18:00～19:10

栗山町総合福祉センター 中ホール

- 出席者 検討委員 16 名 ※欠席者 0 名
教育長（挨拶まで）
事務局員 5 名 ※学校教育課課長、学校教育課学校再編室室長
社会教育課主幹、学校教育課学校再編室主査
学校教育課学校再編室主事

○傍聴者 2 名

進行：事務局

1 開 会

2 委 嘱 状 交 付

- ・ 出席委員 16 名に教育長より委嘱状を交付

3 あ い さ つ 栗山町教育委員会 教育長

- ・ 本日はお忙しいところ集まりいただき大変ありがとうございます。地域教育協議会からの代表の皆さんには社会教育委員としての役割もありながら、学校再編の部分も担わなければならないということでもよろしくお願い致します。
- ・ 会場を見て何か気づきませんか？全員男性です。私は学校再編に関わらず学校づくりは町づくりだと着任当時から町民の皆さんに言わせていただいています。その時に女性の目線が非常に大事になってくる。私は、この立場になってより一層感じて今教育行政を執行しています。自分の身近な女性の方々の意見、PTA会長の皆さんはPTA会員のお母さん方の意見など、地域の方々の中に女性目線が必ずあります。
- ・ 今言ったような色々な角度の視点が、栗山の町づくりにおいても大切になります。このような視点を忘れずに、事務局とともに建設的になおかつ多くの理解を得られることを切に願います。
- ・ 何か行動をすると成果と課題が出る。しかしながら課題は一つでも二つでも減らすことで今後の栗山町の子ども一人ひとりの成長に繋がる。大きな目標に向かってこの準備委員会をスタートしていきます。皆さん一人ひとりの力を貸していただく中

で、栗山町の子どもにとって大事な学校再編にしっかりと向き合いながら話を進めていきたい。

- ・ 事務局も教育委員会としても精一杯、未来の子どもたちのためにできることを提案して参りたいと思います。皆さんのお力を借りてこの先実現できるものを一つでも二つでも増やしたいと考えていますので、どうぞよろしくお願い致します。

4 委員・事務局紹介

- ・ 事務局より出席委員と事務局職員を紹介

5 委員長・副委員長選出

委員長 土屋委員

副委員長 奈良崎委員、川元委員、長崎委員

進行：委員長

6 経過報告

資料1

[事務局]

- ・ これまでの経過とこれから進める学校再編の根拠となる栗山町立小中学校の適正配置計画の概要について、委員の皆さまと共有したうえで、これからのことを進めていきたいと考えておりますので、まず適正配置計画の概要とこれまでの経過について簡単に説明させていただきます。前方のスクリーンをご覧ください。
- ・ これは今年の冬に開催した町民説明会時のものですが、こちらを使って説明させていただきます。内容としては大きく4つに分かれますが、本町の学校教育が目指す姿、これまでの経過、計画の概要、最後に計画の今後の進め方について、4点についてご説明したいと考えています。

1) 学校教育を語り合う会から適正配置計画決定までについて

[事務局]

- ・ まず学校教育の目指す姿についてですが、今回の学校適正配置の検討にあたっては、児童生徒数の減少や校舎の老朽化などのネガティブな問題点を切り口とするのではなく、より良い学校経営のため町民のみなさんと話し合いを進めてきました。
- ・ 栗山町が実現したい学校教育の在り方ですが、教育委員会では「過去に学び、現在を生き抜き、夢と志を持って歩む、栗山の子」と定め、様々な取り組みを進めています。そしてその実現のためには特に「小中一貫した教育」を基盤にした取り組みが必要であると考えています。この写真は、東京都品川区立豊葉の杜学園での教育活動の様子です。グラウンドで運動会の練習をしている小学3年生の頑張りを、同じ施設で学ぶ幼稚園年長組の幼児が食い入るように見つめており、その後ろには中学2年生の生徒が、将来、幼稚園教師になることを夢見ながら職場体験学習を行っ

ています。ここの一環教育の環境には、子ども達同士で高め合い、自信を持ち続ける教育的要素が詰まっています。こういうことを栗山町でも目指していきたいと考えています。この学校での教育活動からも学び取れるように、栗山町においても「小中一貫した教育」を基盤にした取り組みを進めるため、「子どもの夢や笑顔について語り合う」ことを大切にしながら取り組むことを最優先として、これからの学校教育の在り方について検討を進めてきました。

- ・ 以上の点を踏まえて、2点目の「これまでの経過」になりますが、適正配置の検討については、令和5年10月に開催したまちづくり懇談会での話題提供を皮切りに、令和6年1月22日から2月9日にかけて「子どもたちのための学校教育の在り方について語り合う会」を開催し、町民のみなさんとの懇談を行っています。この語り合う会には7会場で77名の方にご参加いただき、約270件以上の意見やアイデアを頂きました。
- ・ その後、令和6年5月に、教育委員、学識経験者、各校PTAの代表、地域の代表者等による栗山町立小中学校適正配置計画検討委員会を設置し、語り合う会でいただいた意見や、今後の児童生徒数の推移などの客観的な資料を踏まえて、各委員のみなさんそれぞれの立場から、学校の適正配置についてご協議いただきました。
- ・ 令和6年10月に、その協議結果をまとめ“適正配置計画に関する提言書”として、教育長が受理しています。
- ・ その後、提言書をもとに、町や議会との協議を経て、令和6年11月22日に教育委員会会議において、適正配置計画を決定しました。1月から2月にかけて町民説明会を行っています。
- ・ 繰り返しになりますが、この適正配置計画は、一貫して、子ども達のために学校教育環境がどうあるべきかという観点で検討を進めたこと。そして、検討委員のみなさんには、町民のみなさんからの様々な意見を共有いただき、地域、PTA、教育の観点から総合的に検討して、あるべき適正配置についてまとめていただいたものであります。

2) 適正配置計画の概要について

- ・ 事前配布した資料1「栗山町立小中学校適正配置計画の要点」と併せてご覧ください。まず、この適正配置計画の目的についてです。小中学校適正計画の目的は2つあり、1つ目は、学校教育に関わる関連施策の推進について。
- ・ 2つ目は、学校規模の適正化について、それぞれの中長期的な見通しを立てることを目的としています。また、検討委員の皆様から頂いた意見やパブリックコメント、各種データに基づき、子どもたちの健全な成長を図ることを優先的に考えて、充実した学校環境の整備を進める計画としています。
- ・ さらに、学校数の見直しに伴い懸念されることへの対応についても、適正配置の進行に併せて適切な対応・措置に努めることを明記した内容となっています。

- ・ それでは、計画の内容の「①関連施策の推進」についてです。まず、一点目の小中一貫教育の推進です。小中一貫教育の推進については、学校の適正配置と並行して、さらなる推進を図ることとしています。
- ・ また、本町においては、子どもの人数が今後も減少する見込みであることや、施設の整備など物理的な要件、地域性、教員の配置などを考慮し、基本的に「義務教育学校」の類型・形態を目指すことで整理しています。ここで、「小中一貫教育」について、簡単に説明しておきます。
- ・ まず、「小中一貫教育」についてですが、義務教育9年間でどのように児童生徒を成長させるのか具体的なビジョンをもって、体系的な教育課程を編成するものです。例えば、市町村等の判断で9年間を見通した学年の区切りを、現行の6年・3年制から、例えば、5年・4年制や4年・3年・2年制などに変更が可能になります。「小中一貫教育の主な形態」についてですが、まず、1つ目が「義務教育学校」です。
- ・ これは、平成28年に制度化された新たな学校の種で、1人の校長、一つの教職員組織を置き、修行年限が9年間の学校です。道内の例だと、歌志内学園、とうべつ学園、早来学園などが義務教育学校で、近隣だと長沼町と砂川市で義務教育学校の開校を準備中です。
- ・ 2つ目が「小中一貫型小学校・中学校」です。これは、組織上独立した小学校及び中学校が一貫した教育を施す形態で、それぞれの学校に校長、教職員組織を置きます。道内の例だと、由仁小・中学校、長沼小・中学校などが小中一貫型小学校・中学校です。
- ・ 次に、「①関連施策の推進」の2点目の「ふるさとキャリアプログラムの推進」です。本町では、ハサンベツでの自然環境教育、ふるさと給食、町内企業での職場体験学習などに取り組んでいますが、これらの取り組み実績や学校教育の在り方を語り合う会等での町民のみなさんの意見を踏まえて、引き続き「地域資源を活かした“地域と歩む持続可能な教育”を推進」していくものとして計画を整理しています。
- ・ 続いて「②学校規模の適正化」についてです。まず、児童生徒数の変遷と予測について説明します。みなさん、ご存じのとおり栗山町でも少子化が進んでいます。平成8年度には、小中学生合わせて1,378人いましたが、令和6年では665人。そして、このまま推移すると6年後の令和12年度には196人減って、469人となる見込みです。それぞれの小学校の予測をもう少し詳しく見ていきます。
- ・ まず、継立小学校です。ここ数年で減少が一気に進み、令和9年度では新入生が1名、全校でも22名となり、全学年で複式学級となる見込みです。
- ・ 次に、角田小学校です。令和8年度以降は全ての学年で一桁の児童数で、常時、複式学級が発生する見込みです。なお、全校児童数をみると継立小学校ほど急速に減少はしていきませんが、現在、公営住宅に入居している世帯が将来的に学外に転居

する可能性があることや、近年は農家後継者が市街地に住居を構えるケースも増えており、この予測よりも減少する可能性が高いことが想定されます。

- ・ 最後に、栗山小学校です。空知管内でも大規模小学校ですが、ついに栗山小学校でも令和10年度には1クラスの学年が発生する見込みです。以上のことから、小学校の統合においては、段階的に集約する手法では適正規模の確保は困難な状況にあり、学校規模の適正化を図る上では、児童数の将来予測推移から、1校に集約しなければ持続的な学級数の確保に繋がらないと考えられます。このことから、小学校の統合にあっては、教育環境の統一的な整備や今後の小中連携等の円滑な推進を鑑みて、小学校3校を教室数が一番多い栗山小学校へ集約することで計画を整理しております。
- ・ 次に「2. 学校校舎の利用」についてです。栗山小学校の校舎及び体育館は築40年以上が経過していること、さらに、学校施設に対する概念は新しい時代の学びの姿に向けて変化しており、柔軟で創造的な学習空間を実現する必要があります。
- ・ このため、統合する小学校については、新校舎等の建築或いは栗山小学校校舎等の大規模な改修を基本としつつも、将来的に児童数の減少が予想される中での学校施設の活用方法や、費用対効果、さらには町財政への長期的な影響も踏まえたうえで、老朽化が進む栗山中学校体育館の新築と併せて検討することで整理しております。
- ・ 次に、中学校校舎については、生徒数の予測推移から現状の施設規模で対応が可能と判断できること、さらには一番新しい校舎のため長寿命化対策を実施することで耐用性も問題ないと考えられます。
- ・ しかし、体育館については築50年以上を経過しているため新体育館の建築が不可欠な状況にあります。このため、校舎部分については改築による長寿命化工事を、体育館については新築を基本としつつも、将来的に生徒数の減少が予想される中での学校施設の活用方法や、費用対効果、さらには町財政への長期的な影響も踏まえたうえで、小学校の新築等と併せた検討をすることで整理しております。
- ・ 参考までにですが、この絵は、文部科学省が示す新しい時代の学校施設のイメージです。教室の壁がなかったり、図書館とコンピューター教室が組み合わさったり、木材を活用した温かみのある空間や、地域コミュニティの拠点として活用できる空間があったり、環境にも配慮された施設など、今後、求められる学校施設はこの様なものを目指していく必要があります。今の校舎をそのまま使い続けるわけではなく変えていく必要があります。
- ・ 続いて、「3. 学校を配置する位置」についてです。学校を配置する位置は、通学時の安全はもとより、交通機関の整備状況、他の教育関連施設の利活用に関わる利便性などに配慮する必要があり、加えて保護者の負担や地域との関係性も考慮しなければなりません。
- ・ さらに、本町は南北に長い地形となっており、市街地に児童生徒が集中しているこ

とも考慮しなければなりません。これらのことを踏まえると、市街地地域を優先に考え選定することが望ましく、また、今後の小中一貫教育の円滑な推進や隣接による利点も鑑みて、小学校と中学校を可能な限り近接地に設置することで計画を整理しております。

- ・ 次に「4. 通学手段の確保」についてです。統廃合により遠距離通学となる児童に対しては、現在、栗山中学校への通学で運行しているスクールバスと同様に対応し、詳細は栗山町スクールバス運行計画等実行委員会において協議することで整理しております。
- ・ 続きまして「③計画のスケジュール」についてです。まず、基本的な考え方ですが、計画期間は、栗山町第7次総合計画と同様の期間の令和12年度までを基本としています。ただし、計画の推進はより良い教育環境を早く提供するために、可能な限り早期実現に努め、協議・諸条件等が整った場合は、実施時期を早期にすることも検討します。それでは、まず「小学校の統合」についてです。
- ・ 3小学校の統合は令和8年度までの完了、つまり令和9年4月から栗山小学校1校を目指すことで整理しています。検討委員会の中では、小学校の統廃合と施設整備とを一緒にした方が良いという意見があったのですが、施設整備が支障となり統廃合自体が遅れてしまう可能性があります。そのため、令和9年度の継立小学校の新入生の状況や複式学級の状況等を踏まえて、小学校の統廃合を優先しました。
- ・ しかし、校舎等の老朽化は進んでおります。施設整備については、まず、統廃合と並行して役場内部で検討した後に、町民を交えた検討組織を立ち上げ、そこで今の時代に沿った施設環境や町の財政規模を踏まえた検討を行い、学校施設の整備方針を作ります。その後、基本設計を行い財源調達の見通しを立てて、実施設計、工事着工、供用開始の時期を示していくものとして整理しています。
- ・ 次に「2. 小中一貫教育の導入」についてです。こちらについては義務教育学校の導入を基本としていることから、校舎の整備スケジュールとの整合を図る必要があります。現時点で校舎の整備スケジュールが未確定のため、導入時期を令和9年度以降として整理していますが、確定するまでの間は、小学校と中学校との校舎は別々の中で一貫教育の推進を図っていきます。以上が、適正配置計画の概要となります。
- ・ 最後に、「4. 今後の進め方」についてです。今ほど説明した計画には、統廃合に関する詳細や具体的なことまでは定めていません。この計画の実現に向けては、学校再編準備委員会と役場内のプロジェクトチームを立ち上げ、そこで、統廃合等に関する具体的な内容を協議・検討していきます。
- ・ また、その内容については、随時情報発信、共有に努め、必要に応じて説明会などを開催しながら、町民の皆さんとの意思疎通を図って進めていきます。なお、角田小学校と継立小学校が閉校することによって、それぞれの地域への影響が懸念され

ます。この点については、適正配置の進行に併せて関係部署や関係機関などと連携・協議し、適切な対応・措置に努めること、そして、地域や保護者はもとより、まちづくりへ与える影響も考慮しながら、効果や効率性、さらには合理的な手法を十分鑑みて執り進め、角田小学校のある中部地域や、継立小学校のある南部地域への配慮に努めることを明記しています。

- ・ 以上が経過及び適正配置計画の概要となり、この計画に基づき学校再編の準備に関する調査・協議を進めていくわけですが、その主体の1つがこの準備委員会になります。準備委員会の役割や今後の進め方については、次第の「7. 栗山町立小中学校再編準備委員会の役割・想定スケジュールについて」でご説明させていただきます。説明は以上になります。

7 栗山町立小中学校再編準備委員会の役割・想定スケジュールについて

1) 栗山町立小中学校再編準備委員会の役割について

資料2

[事務局]

- ・ まず1点目、栗山町立小中学校再編準備委員会の役割についてですが、資料2「学校再編に係る関係組織の構成」をご覧ください。
- ・ 学校再編を推進する組織は大きく2つです。
- ・ 1つ目の推進組織は、資料の下段になりますが、本日、設立しましたこの栗山町立小中学校再編準備委員会で、こちらは教育委員会内における検討・準備主体となります。事前配布しました準備委員会設置要綱をご覧ください。
- ・ 第2条に所掌事項が記載されていますが、この準備委員会では、適正配置計画に基づき、学校再編の準備に関する調査及び協議を行うものとしています。この準備委員会で調査・協議した結果を、教育委員会議や町議会に諮って正式に決定する。そのような流れになるとご理解ください。
- ・ また、委員構成につきましては、要綱上は第3条に記載している者のうち20名以内で組織することになっておりますが、当面、小中一貫教育の推進と小学校の統廃合準備が中心となることから、令和7年度においては、各学校長と教頭、PTAの代表、地域教育協議会の代表の合計16名としてスタートしています。
- ・ 準備委員会には「教育課程・一貫教育部会」、「施設・設備部会」、「インクルーシブ部会」、「地域連携部会」の4つの部会を設けており、学校再編に関わっての情報は基本的には、この4つの部会を通じて準備委員会に集約される流れとしています。
- ・ ただし、この図は将来的なイメージとして作成しているものですので、今年度の形態については、次第の「8 議題」の方で別途ご説明させていただきます。
- ・ 次に、2つ目の推進組織であります。資料の上段、栗山町立学校再編庁内プロジ

ェクトチームとなります。

- ・ こちらは、学校再編に関連する町全体の取組みを推進する主体で、所掌事項は関係部署との調整や、町議会、総合教育会議への提案等を行うほか、当面、学校施設に係る内部検討を優先に進めることから、学校施設の建築及び改築等に関すること、学校再編に伴う関連予算の調整に関すること、廃校後の地域振興に関することを所掌事項としており、副町長をリーダーとして、関連する課所職員をチームに配属しています。
- ・ 準備委員会の役割については以上ですが、次の（２）学校再編に係る想定スケジュールについても関連がありますので、続けて説明させていただきます。

２）学校再編に関わる想定スケジュールについて

資料 3

- ・ 資料 3 「学校再編に係る想定スケジュール」をご覧ください。こちらは、先ほどの計画概要で説明したとおり、当面、優先的に準備を進める小学校の統廃合を見据えた案となっています。資料の上段には大まかな進捗段階を示しておりますが令和 9 年 4 月から小学校 1 校とするためには、令和 7 年度末までに、学校再編の内容を決定し、令和 8 年度中に備品の移設や閉校等の準備を行う必要があります。
- ・ そのことを踏まえて、２段目以降に各組織の想定スケジュールを記載していますが、赤字で示しているとおり、学校設置条例の一部改正、統合、閉校関連に係る予算、総合計画の一部変更などの関連議案は、基本的には令和 8 年 3 月議会定例会議または令和 8 年 6 月議会定例会議までには議決を受ける必要があります。
- ・ この議会提案に間に合うよう、先ほどご説明した推進組織を中心に具体の調査・協議を進めていきます。全体的な組織体制やスケジュールについては以上のとおりです。
- ・ この様な体制のもと、今後の準備を進めていくところですが、本準備委員会で取り進む内容については、次第の「８．議題」において、ご提案させていただきます。説明は以上です。

—質疑等—

[委員]

- ・ 過去に、スクールバスの通学で事故等があったのか。

[事務局]

- ・ スクールバスによる事故はありません。

[委員]

- ・ 継立中学校の跡地はキャンプ場として利用していますが、どんな状況なのか知りたい。

[委員長]

- ・ 継立小学校から見た感じでは、土日はほぼ人で埋まっている。旅館業の資格も取っているので冬も活用可能です。活用状況としては悪くないと思います。

8 議題

1) 小学校の統合方法について

[事務局]

- ・ 小学校の統廃合については、適正配置計画に基づき、角田小学校と継立小学校を栗山小学校へ統合させる方針は決定しております。統合方法につきましては、一般的には、3つの小学校を全て廃校とし、新たな栗山小学校を新設する方法と、栗山小学校を残して角田小学校と継立小学校が栗山小学校に統合する方法の二通りがあります。
- ・ 新設する場合、校歌や校章などをゼロベースで検討し直す必要があるため、令和9年4月の統合までの準備スケジュールが非常にタイトになること。また、本町においては、将来的に目指す学校形態について、義務教育学校も視野に入れていることや、今回の3つの小学校の統廃合は令和9年度の継立小学校の新入生の問題等を解決するための段階的な対応であることから、統合に伴う準備は最小限に留めたいと考えております。
- ・ よって、栗山小学校を残して角田小学校と継立小学校が栗山小学校に統合する方法を進めていくことをご提案させていただきますので、小学校の統合方法についてご協議くださいますようお願いいたします。

—質疑等—

[委員]

- ・ 栗山中学校の開校50周年の際、継立中学校と統合してから10年も経っていなかったため、栗山中学校OBからの配慮があり50周年記念事業を見送った経過があった。
- ・ 当時は、統合してから10年目ないし、何かの節目の時にやっではどうかという議論のまま終わったと思うが、栗山小学校に統合する場合、周年行事はどう考えているのか。

[事務局]

- ・ 現時点ではそこまで具体的なことは決まっていない。今の話は、今後の検討内容に引き継いでいきます。

[委員]

- ・ 統合方法について、これまで地域の説明会などで話をしているのか？また、地域の雰囲気はどのような状況なのか教えて欲しい。

[事務局]

- ・ 具体的に説明をして諮った訳ではないですが、全体的な傾向としては、栗山小学校を残して角田小学校と継立小学校が栗山小学校に統合する前提で色々な質問や要望が上がっていますので、新設は想定されていないと考えています。
- ・ 統合方法によって準備する内容が変わります。具体を検討・協議する本委員会として、まず統合方法の認識を揃える必要があったため今回の協議事項に挙げさせていただきました。協議結果を基に、今後、教育委員会会議や議会で判断を仰いでいきたいと思えます。

[委員]

- ・ 長沼町の小学校を1つに統廃合した際、地域との折り合いがつかず、全ての学校を閉校して校章や校歌などを子どもたちにも投票させるなどを行い、新設の長沼小学校を作った。
- ・ その時の経験があったので、栗山町ではどうなのかなと思い確認させていただいた。

[委員]

- ・ 統合方法の表現には地域への配慮が必要だと思う。

[委員]

- ・ 表現には配慮しながら、栗山小学校を残して角田小学校と継立小学校が栗山小学校に統合する認識で進める必要がある。

[委員]

- ・ 自分の子どもが継立小学校に通っている。私も継立小学校を卒業しているので、子どもと一緒に校歌を歌うことは親として嬉しい。
- ・ 例えば、小中一貫校として9年間で3年、3年、3年に分けた場合、学年別に校歌を分けてみるなど、他にも小学校があったという歴史を子どもたちに残せないか。校歌は心に残るものなので残して欲しい。

[事務教]

- ・ それぞれの地域で今までやってきた行事なども含めて、各学校での取組みは子どもたちのために継続して欲しいという意見はいただいている。校歌の話も含めて今後の検討材料とさせていただきます。

[委員長]

- ・ 継立小学校のPTA会長さんはどうでしょうか？

[委員]

- ・ 3校の小学校を統合して栗山小学校になりますよね、その後に中学校も一緒になるような話を聞いているがその時には栗山小学校は閉校するのか。

[委員長]

- ・ 義務教育学校になった場合は栗山小学校、中学校は閉校になります。

- ・ 義務教育学校はいつになるかわからないですが、今、栗山小学校を閉校すると2回閉校するという考え方になります。
- ・ 最終的に義務教育学校を目指す計画となっているため、そういうことにならないようにするための事務局提案となっています。
- ・ 角田小学校のPTAでは何か話題になっていることはありますか？

[委員]

- ・ 統合方法については、栗山小学校を残して角田小学校と継立小学校が栗山小学校に統合し、いずれ小中一貫の学校になるのだろうなという皆さんの認識だと思います。

[委員長]

- ・ 今の話をまとめていくと、3つの小学校を全て廃校とし、新たな栗山小学校を新設する方法だと、栗山小学校の閉校準備も必要になってしまいますので、栗山小学校を閉校しようということではないと思います。
- ・ また、統廃合を最終的に決めるのは町議会になりますので、本委員会としては、栗山小学校を残して角田小学校と継立小学校が栗山小学校に統合する方法での準備を進めるということによろしいでしょうか？

承認

[委員長]

- ・ それでは、その様な方法で押さえさせていただき、地域の方などへの説明については表現に配慮して進めていただくようお願いします。

2) 準備委員会スケジュール（案）と協議項目（案）について

資料4

[事務局]

- ・ 準備委員会のスケジュール案については、事前に配布していたものではなく、本日配布いたしました資料4（令和7年度スタート時点）を使用し説明いたします。
- ・ こちらは、当面、小学校の統廃合の準備を進めることを想定したスケジュール案となっており、今ほど承認いただきました統合方法を想定したスケジュールになります。
- ・ 左から部会、整理No、検討項目、検討主体、令和9年4月までのおおよそのスケジュールを示しています。まず、部会に関しては、スタートの段階ではまだ何をするか決まっていないので無視していただいて結構です。
- ・ 上から順番にご説明しますが、まずNo.1の広報・情報発信からNo.3の各部会の進捗管理については、学校教育課が主体となって進めます。

- ・ 次にNo.4の学校の名称、校歌、校章及び校旗に関することから、No.7の統合に向けた交流事業等に関することについては、校長会を中心として検討・準備を進めていただきます。
- ・ 次に番号が飛んでいますが、No.9の通学路の設定・安全対策については、統合後の栗山小学校に検討・準備を進めていただきます。
- ・ 次にNo.10のスクールバス運行については、スクールバス運行計画検討委員会において検討・準備を進めていただきます。
- ・ 次にNo.11の備品リストの整備・整理からNo.15の学校文書管理/PCデータ管理等までについては、3小学校の教職員を中心として検討・準備を進めていただきます。
- ・ 次にNo.16からNo.18までは、特別支援教育等に関することですが、小学校の統廃合には直接関係することが当面出てこないため、スタート時点での検討主体や想定スケジュールはありません。
- ・ 次にNo.19のPTAについては、3小学校のPTA役員と教職員を中心として検討・準備を進めていただきます。
- ・ 次にNo.20のコミュニティスクールについては、学校運営協議会連絡会を中心として検討・準備を進めていただきますが、令和8年度から一本化するということを昨年度末に合意をいただいておりますのでそういった準備になります。
- ・ 次にNo.21ふるさとキャリア教育については、まず学校と教育委員会で編制するふるさとキャリア教育推進委員会を中心として検討・準備を進めていただきます。
- ・ 次にNo.22の栗山町青少年育成会については、町育成会を中心として検討・準備を進めていただきます。
- ・ 次にNo.23の学校記念史については、角田小、継立小それぞれで編纂委員会を立ち上げていただき、検討・準備を進めていただきます。
- ・ 次にNo.24の閉校記念行事・式典については、角田小、継立小それぞれで実行委員会を立ち上げていただき、検討・準備を進めていただきます。
- ・ 最後にNo.25の閉校式については、教育委員会を主体とし角田小、継立小それぞれで検討・準備を進めていきます。
- ・ 右側に示したスケジュールは目安となるものを予め示していますが、今後の検討を進めていくなかで具体化していきたいと考えています。ただし、統廃合に伴い必要な経費について、町の予算が伴うものは遅くとも令和8年6月議会までに議決を受ける必要があることから、年度内には様々な経費の積算をお願いしたいと考えています。
- ・ また、先ほどの次第の7で、学校再編に係る関係組織の構成の最終的なイメージをお示ししましたが、ただ今の説明を踏まえて、令和7年度スタート時点での組織構成は、本日配布いたしました、資料5のとおりとなります。

- ・ 4つの部会を設けておりますが、スタートの時点では部会単位ではなく、今ほどご説明した検討主体を中心に検討・準備を進めていただき、事務局の方で全体的な進捗管理を行います。
- ・ 説明は以上となりますが、本日はまず、全体的な進め方についてご承認をいただければ、今後の具体的なことについては、関係校の教頭を通じて検討主体毎のスケジュール等を別途調整させていただき、準備・検討を進めてまいりたいと考えております。以上、ご協議くださいますようお願いいたします。

—質疑等—

[委員]

- ・ 例えば、各特別委員会（リーディングDX委員会など）と各部会（教育課程・一貫教育部など）の取組みは、今年度についてはリンクさせずに進めるのか？

[事務局]

- ・ その通りです。今年度の特別委員会の予定を精査したときに、各部会で進めることとはすぐにリンクしないため、まずはリンクさせずにスタートします。
- ・ ただ、目指す方向性は同じですので、最終的にはリンクしていきます。あくまでも、スタートの時点ではという認識でお願いします。

[委員長]

- ・ 今の話は、学校の教員以外はわからないと思いますので補足ですが、学校の中に特別に設けた委員会があります。
- ・ 例えば、ICTを使うのに学校間で差が出ないように、一緒に話し合いをしながら何年生までにこれ位やろうねとか特別委員会を主体として統一しています。それが統合後の道筋になるということです。
- ・ 特別委員会と部会をリンクさせようという話が検討時点であったのですが、スタートの段階で一緒にしてしまうとわかりにくくなってしまうので、まずは別々にしましょうという話です。
- ・ 他に質問意見などありますか。

—なし—

[委員長]

- ・ スケジュールについては、目安としてはこのように進めていけるようお願いしたいと思いますがよろしいでしょうか？

承認

[委員長]

- ・ それでは全体を通じて何かありますか？

[委員]

- ・ 統廃合することがわかっているならば、統廃合前に角田小学校・継立小学校区から栗山小学校へ通学したいという声があるかもしれない。
- ・ 統廃合前から栗山小学校に通学することは可能ですか？

[事務局]

- ・ 過去に継立中学校が廃校になった際にはそういうお子様がいた。統廃合を見据えて校区外から通学された方がいましたので今回も同様の対応と思っています。

[委員]

- ・ 認められるということですよ？

[事務局]

- ・ はい。校区外ではあるが前例があるため可能です。

[委員長]

- ・ どれくらいの希望があるかわかりませんが、現状として逆もあります。栗山小学校区に住んでいるのに、継立小学校に通っている子どももいます。事情により認めてしまっている現状はあります。その場合は、継立小学校への登下校は親が送迎している。統合していないのでスクールバスを出すことにはなりません。

[委員]

- ・ 統合すれば、栗山小学校に登下校で並ぶ車の台数は増えるということですよ？

[委員長]

- ・ 通学に関しては可能であるというところまでです。統合後、車の台数は増えると予想はされるが、現時点ではそこまで具体的なことは考えていないため、今の話は、今後の検討内容に引き継いでいきます。
- ・ 他に質問意見はありますか？

[委員]

- ・ 継立小学校と角田小学校が廃校になった場合、跡地活用はどうなるのか。企業誘致などは閉校と同時に始まることになるのか。

[事務局]

- ・ 閉校が決まったタイミングできちんとそういう対応ができるように、これから準備を進めます。
- ・ 今の時点でまだ閉校する事が決まっているわけではないので、企業からの問い合わせもないです。
- ・ その準備については、役場内職員で組織するプロジェクトチームを主体として検討します。

9 そ の 他

(1) 次回の検討委員会の日程について

[事務局]

- ・ 本委員会は、年間3回開催したいと考えています。
- ・ 中間で10月2日、最後が3月6日を目途にしていますが、時期が近付いたら改めて委員の皆様にご都合を聞いて日程を調整いたします。
- ・ なお、全員で協議する案件が出てきた場合は臨時で開催するという事もあるかもしれませんがその時は色々と相談に乗っていただければと思います。
- ・ 学校の先生方に当てはまらないのですが、学校の先生以外の委員の方には謝礼がすべての会が終わった後にお支払いされる予定となります。お手元に振込先と記載していただく資料の案内をさせていただいておりますので、次回の検討委員会までにご用意いただければと思います。事務局からは以上です。

10 閉 会

19:10 終了